



岩手県社会福祉士会 IACSW

ニュースレター

～ NO.142 弥生 号 ～



■ Contents 目次 ■

- ・会員の輪リレートーク p.2
- ・委員会 活動報告 p.3～4
- ・ブロック 活動報告 p.5
- ・岩手県ソーシャルワーカー三団体 情報交換会報告 p.6～7
- ・理事会 報告 p.8～9
- ・Information ～事務局から～
 - (1)定期総会案内 p.10
 - (2)寄付について p.10
 - (3)お知らせ・今後の活動予定 p.10～11



会員の輪 ～リレートーク～

「行政ママワーカーとしての模索」 盛岡ブロック 熊谷 はるえ

同級生の岩館さんからバトンを引き継ぎました、熊谷はるえと申します。正直に申し上げますと、私たちは学生時代、決して「真面目な学生」ではありませんでした。しかし卒業後、お互いに福祉の仕事に対して真摯に向き合っている姿に、不思議な縁を感じています。

今日は私が社会福祉士として抱く思いを綴らせていただきます。世の中には「ハッピー」を作る仕事もたくさんありますが、なぜ私は、苦しさや別れにも直面するこの道を選んだのか。振り返れば、中学時代に共感したマザー・テレサの「すべての人は尊重され、愛されるべき存在である」という思想が、原点だったように思います。

大学卒業後は施設の相談員として勤務していましたが、個々のニーズに対し自組織だけでは対応しきれないジレンマを抱き、地域包括支援センターでの勤務を志して当時の滝沢村役場に入職しました。念願の配属ではあったものの、組織にとって初めての社会福祉士として、当時の私はあまりに未熟でした。指導に戸惑われた先輩職員も多かったはずですが、そんな私を強力な道標として支えてくださったのは、岩手県社会福祉士会の先輩方でした。

入職間もない頃、ある先輩から「感謝されるのは、今の自分の『立場』があるからだ。勘違いするな」と言われたことがあります。その時私は、「感謝されたいわけではない。たとえ余計なお世話だと言われても、結果としてその方の心や生活環境が楽になるならそれでいい」と考えました。私にとってこの仕事は、他者を支えるだけでなく、多様な生き方に触れることで自分自身の生きづらさを和らげ、自らの生きる糧を積み上げていくプロセスでもあると感じています。

その思いは、家庭においても同様でした。我が家の三人の息子のうち一人が、学校に行けない時期があり、出口の見えない日々に親子で悩みましたが、少しずつ変化が訪れました。当事者としては頑なに拒んでいたフリースクールでしたが、経験者としてのボランティアを勧めると、今では自ら積極的に通い、ピアサポーターとしての居場所を見つけています。スタッフの方々に支えられながら自己肯定感を育み、社会経験を積んでいく息子の姿を、親として、そして一人のワーカーとして頼もしく見守る日々です。

福祉の現場において、目に見える「嬉しい報告」は多くありません。しかし、風の便りで「うまくいっている」と耳にすると、自分の描いた支援がその方の人生にうまく合致したのだと、静かな達成感を覚えます。

延べ16年半在籍した地域包括支援センターを離れ、現在は保険年金課で社会保障制度を「運営する」立場となりました。役割は変わりましたが、社会福祉士として培った視点やネットワークは、現在のマネジメントにも大きな力となっています。これからももう少しだけ、行政社会福祉士として、母として、自分にできることを模索し続けていきたいと思っています。

次は、地域包括支援委員会でお世話になった一関東部地域包括支援センターの菅原大輔さんにバトンをお繋ぎします。よろしくお願いします！

委員会 活動報告

1. 盛岡ブロック 社会福祉士情報・意見交換会

ユース委員会 盛岡ブロック 委員長 八重樫 宗俊

私たちユース委員会は、若手社会福祉士の顔の見える関係性作りに日々取り組んでおります。今回は、盛岡ブロック独自企画で行った情報・意見交換会について触れさせていただきたいと思います。

今年度は12月に盛岡ブロック独自企画として情報・意見交換会と題して焼肉を囲みながら若手社会福祉士間の繋がりを深めました。それぞれの悩みや葛藤をお話したり、社会福祉士あるあるを共有したりと和やかなムードで有意義な時間を共有できました。次回はお好み焼きをしたり、飲み会をしたり…と様々な形で交流を深めていきたいと考えています。所属以外の社会福祉士と交流してみたい、困った時の相談できる人を作りたい、同じ志を持った仲間と交流したい、同世代で働く社会福祉士と気持ちを分かち合いたい等どんな動機でも大歓迎です。ユース委員会の今後の企画にぜひご参加いただけると嬉しいです。よろしくお願い致します。



平日の夜に食事会形式！全員ノンアルコールでも盛り上がりました☆

2. 2025 年度 岩手県社会福祉士会 実践研究発表会

実践研究委員会 委員長 寺崎 卓也

2月21日、ふれあいランド岩手にて実践研究発表会を開催しました。沿岸ブロック、気仙ブロック、権利擁護支援センターぱあとなあ岩手から各1名、基礎研修ⅡまたはⅢを終了した会員3名の計6名の皆さんにご発表いただきました。今年もハイブリッド形式で実施し、48名(会場11名、オンライン37名)の皆さまにご参加いただきました。県外の社会福祉士会会員や学生の皆さまにもご参加いただき、所属や地域の枠を越えて互いに学び合い、交流を深める機会となりました。

なお、7月には三団体合同研修会を予定しております。詳細が決まり次第ご案内いたします。団体間の連携をさらに深めるとともに、ソーシャルワーク実践の可能性を広げる場、そして学生の皆さまが、ソーシャルワーカーとして働く姿やその魅力を身近に感じられる場としたいと考えております。ぜひ多くの皆さまにご参加いただき、ともに学び合う機会となれば幸いです。

<実践研究発表者と演題>

- ①沿岸ブロック:藤澤 慎吾 氏(新たな郷わかたけ 障がい者支援施設かあむ)
沈黙は、支援の危機:社会福祉士の為の心理的安全性
－クライアント中心の支援を支える「勇気ある一言」の力－
- ②気仙ブロック:只野 翔 氏(大船渡市社会福祉協議会)
成年後見制度利用促進の弊害と方策
－岩手県気仙地区における成年後見制度利用実態から－
- ③権利擁護センターぱあとなあ岩手:岩淵 城光 氏(岩淵社会福祉士事務所)
保佐人として身寄りの無い人を支援した事例の考察
－死後事務を見据えた計画的な介入の必要性－
- ④:大西 美穂 氏(岩手県教育委員会・県北教育事務所)
スクールソーシャルワーカーの効果的な支援のあり方を考える
－当事者や家族・学校が求めること、関係機関との連携－
- ⑤:藤澤 久美子 氏(もりおか復興支援センター青山 コミュニティ番屋)
被災者支援における個別支援と地域支援、その連関について
－青山コミュニティ番屋の被災者支援を振り返る－
- ⑥:菊池 早節子 氏(かなな障害者相談支援事業所)
医療的ケア児とその家族の遊び場 －遊びの場を通じて地域を知り、地域で育ち、育てる－

< 全国大会推薦者 >

- ⑥ 菊池 早節子 氏(かなな障害者相談支援事業所)を全国大会の発表者へ推薦しました！全国大会の審査を通りますと、7月に青森県で開催される全国大会で発表となります。



ブロック 活動報告

1. 沿岸ブロックの今年度活動を振り返って

沿岸ブロック代表 高屋敷 大助

今年度、沿岸ブロック事務局が最も腐心したのは「多様な専門性を持つ会員に対し、いかに価値ある場を提供するか」という点でした。決して安くはない会費をお預かりする以上、単なる親睦に留まらない、血肉となる体験を届けたい。その模索の中で、2度の研修会とレクリエーションを開催しました。

特に印象深かったのは、2月28日の研修会です。「異業種から学ぶ地域課題解決」をテーマに、大槌町で活動する現役ハンターを招聘。深刻な獣害を逆手に取った「ジビエトーク」と鹿肉の試食を通じ、最前線の課題解決を肌で感じました。

異なる領域で奮闘するプロの哲学に触れることは、自身の活動を客観視し、新たな視点を得る好機となります。現場の熱量こそが、会員同士を繋ぐ最高の触媒になると確信した一日でした。今後も事務局として、皆様の活動に確かな「刺激」と「連帯」を供給できるよう、既成概念に捉われない場づくりを追求してまいります。

2. 第2回両磐ブロック研修会開催

両磐ブロック担当

両磐ブロックでは今年度2回目となる研修会を2月28日に開催しました。初めに各委員会からの活動報告の後、岩手県社会福祉士会副会長である北向細子氏を迎え、「社会福祉士の倫理綱領・行動規範研修 ～現場の実践適用を振り返る～」と題して講演をいただきました。

内容としては社会福祉士の倫理綱領・行動規範を再確認するとともに、その後4グループに分かれて「社会福祉士の倫理綱領・行動規範を個々の体験を通して語る」をテーマにグループワークを行いました。グループ発表ではそれぞれ社会福祉士としての倫理観について述べながら、倫理綱領・行動規範について改めて学びなおす機会となりました。

講師北向氏からは、社会福祉士である限り倫理綱領・行動規範を常に意識した実践を行う。考え続けることが大切であることを最後にお話しいただきました。当日は17名が参加し、内1名が非会員の方でした。研修会後は、恒例である懇親会を居酒屋で開催し、13名が参加。お互いの近況や職場の状況など話が弾み、会員相互の親睦を深めました。

2025 年度 第 2 回 岩手県ソーシャルワーク三団体 情報交換会 報告

日時：2026 年 1 月 31 日(土) 16:00 ～ 20:00(18:00～懇親会)

会場：富八商店(盛岡市盛岡駅前北通 3-24)

出席団体：参加者 15 名(名簿参照)

- ・一般社団法人 岩手県社会福祉士会(以下、県士会)
- ・岩手県医療ソーシャルワーカー協会(以下、医療 SW 協会)
- ・岩手県精神保健福祉士会(以下、精神保健 SW 協会)

【第一部：情報交換会】 総合司会：精神保健 SW 協会 事務局長 浅沼 氏

1. 開会の言葉

医療 SW 協会 佐々木副会長より、開会の挨拶および本日の進行についての説明が行われた。

2. 開催趣旨

県士会 坂口会長より、本会の趣旨説明および挨拶が行われた。

ソーシャルワークに対する期待の高まり：犯罪被害者支援や包括的支援体制の構築といった新たなニーズに対し、「分野を横断したソーシャルワーク」が求められている。

権利擁護の重要性：特に身寄りのない人や虐待案件に対し、ソーシャルワーカーが前面に出て権利擁護に関わる必要がある。

顔の見える関係構築：7 月の「ソーシャルワーカーデー(海の日)」の取り組みを軸に、3 団体で何ができるかを模索し、連携を深めたい。

3. 出席者紹介

各団体の出席者より自己紹介および近況報告が行われた。

4. 各会の実践力向上の取り組みについて

(1) 岩手県社会福祉士会からの報告

研修制度は「認定社会福祉士制度」と「生涯研修制度」の 2 本立てで運用。

運営課題として、スタッフの負担増や損益分岐点(20 名程度)の確保が挙げられた。

3 団体共通の基盤(倫理、虐待、権利擁護等)については合同で研修を行い、「プラットフォーム構想」の一環として重複を避け合同で開催し、運営の負担減と基盤強化が図れるのではとの提起があった。

(2) 岩手県医療ソーシャルワーカー協会からの報告

日本協会の基礎研修(2 年クール)が今年度より e ラーニング形式へ移行。

対面研修の参加者が固定化・少数化しており、強いオンライン志向が見られる。

研修ニーズとして、「身寄りのない人への支援」や「ACP(人生会議)」が高まっている。

身寄りのない人への支援については、他県と合同研修を開催した。

(3) 岩手県精神保健福祉士会からの報告

深刻な課題として、**実習指導者の不足や実習先確保の困難さという「教育の悪循環」が報告された。

ワークライフバランス重視の風潮により土日の参加率が低下しており、研修の公的化(業務扱い)を所属機関へ働きかける必要性が指摘された。

現場の疲弊により、「1 人研修に出すだけで精一杯」という切実な実情が各団体からも共有された。

～前述のつづき～

5. 三団体の共通課題の意見交換について

(1) 岩手県ソーシャルワーク三団体のプラットフォーム構想について

現状課題: 会員数は横ばいだが、養成校新卒者の入会がここ数年ゼロであり、組織維持に強い危機感がある。

目的: 資格にとらわれず「ソーシャルワーク専門職」として結束、社会的認知向上と組織力(ソーシャルアクション)を強化するなど。

結論: 日本の各団体との調整は必要だが、人口減少が進む地域レベル(岩手県)から実質的な連携・統合を動かしていく方向で一致。実際にはハードルがあるため、整理をしながら長期的スパンで検討する。

< 合同事例研究会の開催について >

具体的活動として、年 3 回程度の合同事例研究会の開催を決定。(各団体より各一回ずつ事例を提出、事例研究のため過去事例の提出も可能)

対面の「熱量」と広域参加の利便性を両立させるため、ハイブリッド形式(参集+オンライン視聴)での運営を模索する。また、2 時間程度の開催時間、オンライン参加者は視聴のみを基本とし、現地参加者にて指定発言者を決めておき、コメンテーターに学者を置くことなども提案された。

(2) その他(ICT 化等)

会員連携円滑化として ICT 活用を推進。県士会で運用中の会員管理システム(WEBCAS 等)の共有可能性について情報交換がなされた。

6. 情報提供

「つなぐプロジェクト(身元保証問題)」の進捗: 「地域共通ガイドライン」の第 1 稿が完成予定。医療視点に偏らないよう、三団体による視点の補完と執筆協力が要請された。また、県内の介護保険施設へのアンケート調査結果では、施設と医療機関、成年後見人などの実情が明らかになった。各団体等へは、報告は紙ベースだけでなく、発表の場の開催等も検討する。

全国大会の予定: 2026 年 6 月に医療 SW 協会全国大会、2027 年 9 月に精神保健福祉士協会全国大会が岩手県盛岡市にて開催予定。

7. 閉会

精神保健 SW 協会 土田会長より、三団体の連帯を再確認する挨拶があり、閉会した。

【第二部: 交流会】

懇親会: 参加者 15 名

情報交換会終了後、同会場にて実施。三団体の親睦とインフォーマルな情報交換が行われた。

【決定事項・確認事項まとめ】

1. 合同事例研究会の新設: 来年度より年 3 回程度、ハイブリッド形式での実施に向けた具体案を策定する機会を再度、設ける。
2. 実質的な連携の推進: プラットフォーム構想を掲げ、まずは合同事業の実績を積み重ねること、岩手モデルの連携体制を構築する。
3. ガイドライン作成協力: 「身元保証ガイドライン」の完成に向け、社会福祉士・精神保健福祉士の視点を注入し、執筆協力を行う。

記録: 各団体事務局(作成者: 野村) 承認: 三団体代表者(県士会・医療 SW 協会・精神保健 SW 協会)

2025 年度 一般社団法人岩手県社会福祉士会 第4回理事会 報告

【日 時】2026 年 1 月 10 日(土) 13:00~15:30

【会 場】302室<銀河ルーム> ※Web 会議システムを用いて開催

【出席者】理事総数 25 名 / 出席理事数 22 名(WEB 出席:12 名) 監事2名(WEB 出席:1 名)

【報告事項】

- (1) 監査実施方を策定した。今後も修正しながらより良い方針にしていく。

【協議事項】

- (1) ばあとなあ事務局員雇用と費用負担について:運営委員会会費の値上げと受任件数負担金の新設の提案が行われた。異論は出なかった。
- (2) 権利擁護センターばあとなあ岩手名簿登録規程の改正について:前述の提案内容に基づく内容が含まれている。異論は出なかった。
- (3) 懲戒処分案件の公表方法と内容について:①会員に対しては、ニュースレターで臨時総会の議事録掲載、HPの会員専用ページに議事録掲載する。②一般に対しては、HPでの公表及び「盛岡広域成年後見ネットワーク会議」において関係団体を含め公表・報告することが提案される。理事から異論はなく承認される。
- (4) 定款の改正について:電磁的方法や情報通信技術を用いて、総会の通知・議決権行使や出席・理事会等へ参加を提案。異論はなく、次回理事会までに内容を精査し、総会提案を議決事項とする。
- (5) 公印管理に関する規程の制定について:公印の運用について、効率化と管理を徹底することが目的。電子公印について、様々な機関での状況をふまえて活用を提案する。次回、理事会での議決事項とする。
- (6) 第四期中期計画の策定:事前に各委員会、ブロックからいただいた意見を正副会長会議でまとめて提案。まとめた担当から各項目について説明等を行った。次回、理事会での議決事項とし、それまでに意見集約を行いまとめる。
- (7) 2026 年度 総会資料の取りまとめ日程について:日程が提案される。特段、異論は出なかった。
- (8) 2026 年度活動計画表について
- (9) ニュースレター 第 142 号 3 月(web 版)「春の速報版」の編集について
- (10) ソーシャルワーク三団体 情報交換会・懇親会について

【議決(承認)事項】

- (1) 2026 年度定期総会の開催日程について:2026 年 6 月 7 日(日)定期総会の開催日程を提案する。参加理事全員の拍手で承認される。
- (2) 会員の入会退会の承認について:10 月以降入会 2 名、退会 3 名である。参加理事全員の拍手で承認される。
- (3) 賛助会員の入会の承認について:「一般財団法人日本総合研究所」の賛助会員の入会を提案する。参加理事全員の拍手で承認される。
- (4) 公益目的支出計画の再変更について:第3回理事会にて計画期間を令和11年3月31日に延期修正を承認された、別紙「2026年度収支予算表」から、令和9年3月31日で終了する見込みで再度完了時期を変更することを提案する。参加理事全員の拍手で承認される。

【その他】

- (1) 理事名簿について:定款に伴い、理事は連続 4 期までと取り決めがある。今後は、名簿に任期を記載する予定。
- (2) 全国大会(青森)の参加について:正副会長会議にて参加補助等については議論をしている最中である。

2025 年度 一般社団法人岩手県社会福祉士会 第 5 回理事会 報告

【日 時】2026 年 3 月 7 日(土) 13:00~15:30

【会 場】302室<銀河ルーム>※Web 会議システムを用いて開催

【出席者】理事総数 25 名/出席理事数 24 名(定足数:13 名) 監事総数 2 名/出席監事数 2 名

【報告事項】

- (1) 令和7年度盛岡広域地域連携ネットワーク連絡協議会について
会員に関する重要事項にて、当会のぱあとなあ会員の懲戒処分(事例)の共有をした。これにて、臨時総会での質問にあった関係機関への公表を行ったことにすると報告がなされる。
- (2) 第 74 回公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会(岩手大会)
2026 年 6 月 13 日(土)~14 日(日)に盛岡で開催予定、協力依頼あり。

【協議事項】

- (1) 岩手県ソーシャルワーク三団体のプラットフォーム構想について(別紙報告書参照)
- (2) 日本社会福祉士会全国大会の発表者推薦について
2026 年 2 月 21 日(土)に開催した岩手県実践研究発表会の発表者の中から、菊池早節子 氏(基礎研修Ⅲ修了者)を全国大会の発表者へ推薦した。
- (3) 2026 年度定時総会の開催形態について
開催形態についてはハイブリットでの開催を提案し、審議の結果、承認される。
- (4) 岩手県社会福祉士会権利擁護センターぱあとなあ岩手法人後見事業に関する細則の制定について
法人後見の開始にあたり細則を整備する。審議の結果、本日づけで承認される。
- (5) 法人後見実務マニュアル(受任から初回報告までの流れ)について
個人後見との違いなどを含め、初版マニュアルを整備した。今後も運用しながら改訂していく予定。
- (6) 2026年度活動計画表について

【議決(承認)事項】

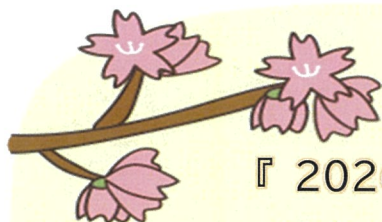
- (1) 規程第 10 号権利擁護センターぱあとなあ岩手名簿登録規程の改正について
主な内容は、ぱあとなあ事務専属の事務員を雇用するため、ぱあとなあ会費を 3000 円値上げし、受任 1 件につき 2000 円の受任負担金を求める内容に規程を改定する。また、特別会計からパートナー会計への組み直しを行う。審議の結果、承認される。
- (2) 定款改正の 2026 年度総会付議事項について
電磁的方法を用いた、招集や議決について定時総会に提案する。審議の結果、承認される。
- (3) 公印管理に関する規程の制定について
電子公印を用いて、業務の効率化を図る。審議の結果、承認される。
- (4) 第四期中期計画の策定について
第三期からの変更点は、基本方針に「地域福祉の推進と強化」を加える。審議の結果、承認される。
- (5) 2026 年度事業計画・収支予算について(定款第 41 条)
各委員会・ブロックより提案する。委員会の運営要項は紙面掲載をせず、HPのみの掲載とする。
<意見>・犯罪被害者支援について、各県の実態把握の要請が来ている。県士会としては地域共生社会委員会が窓口になっているため、今後も引き続き協力を依頼する。
- (6) 会員の入会の承認について / 入会 1 名、転入・転出 1 名、退会 9 名である。承認される。

【その他】

- (1) 全国大会への助成について
正副会長会議でも検討を行い、4 月の理事会で協議する。
- (2) 今年度の社会福祉士国家資格は、岩手県は 210 名合格。(合格率は 60%超)
各ブロック等でも新入会員の入会促進に協力を依頼する。
- (3) 各ブロックの役員や委員等の組織体制等の記入事項を送付する。早めの回答がありがたい。
- (4) 3 月 11 日で東日本大震災から 15 年になる。日本士会と連携し、次の災害へ準備をする。

Information ～事務局から～

◆ (1) 定期総会のお知らせ ◆



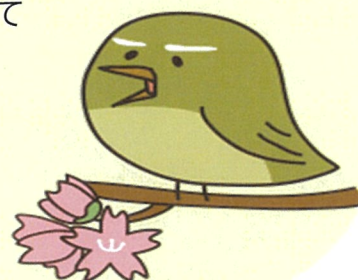
『 2026 年度 定期総会(第 42回)の開催について 』

- ・開催日時: 6/8(日) 13:00～15:30 / 研修会: 15:30～17:00
- ・開催場所: ふれあいランド岩手 研修室・Web開催(Zoomミーティング)
- ・内容: (1) 報告
 - ・ 報告第1号 2025年度事業報告について
 - ・ 報告第2号 2026年度事業計画及び収支予算について(2) 議事
 - ・ 議案第1号 2025年度決算の承認について
 - ・ 議案第2号 定款の改正について

○研修会(岩手県介護福祉士会合同): 15:30～17:00

○懇親会: 岩手県介護福祉士会と合同で開催予定

※定期総会の開催案内は、4月に入りましたら各会員に書面で通知させていただきます。



◆ (2) 寄付の受付について ◆

◎会員(匿名希望)から寄付を受け付けました。

2026 年 1 月 17 日、昨年と同一人物から匿名希望で、5 万円の寄付をいただきました。誠にありがとうございます。会の運営に有効に活用させていただきます。



◆ (3) お知らせ・今後の活動予定 ◆

<情報のメール配信化に向けた「WEBCAS」登録のお願い>

- ・ 当会としては情報提供の一環として、会員管理ソフト「WEBCAS」を設定しています。
- ・ まだ登録設定をされていない方は、当会 HP の「会員マイページ」からご登録をお願いいたします。
- ・ 4月転居や職場の異動に伴って、ご自身で「WEBCAS」の登録内容を変更することが必要になります。HP のパスワードやご不明な点等については、事務局までお問い合わせください。

＜ 今後の活動予定 ＞ (2026年3月27日現在)



【4月】 ※最新情報は、HP または配信されるメール等をご確認ください。

4月13日(月)	事務局会議・正副会長会議	銀河ルーム
4月16日(木)	三士会情報交換会	岩手弁護士会
4月18日(土)	ぱあとなあ業務監査	中野事務所
〃	SSW 第1回NW会議	銀河ルーム
4月20日(月)	税理士指導	中野事務所
4月22日(水)	監事監査	中野事務所
4月25日(土)	第1回 理事会	銀河ルーム

【5月】

5月17日(日)	第1回全国生涯研修委員会議	
5月30日(木)	SSW 第2回NW会議	銀河ルーム

【6月】

6月7日(日)	定時総会・合同研修	
6月13日(土)	基礎研修Ⅲ 1回目	
〃	新会員オリエンテーション	
6月13・14日(土・日)	日本 SW 協会全国大会	マリオス
6月20日(土)	基礎研修Ⅱ 1回目	
〃	ぱあとなあスキルアップ研修 1回目	
〃	日本社会福祉士会定期総会	東京都
6月27・28日(土・日)	SSW 養成研修	ふれあいランド岩手

第34回 日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会(青森大会)

日時:2026年7月4日(土)～7月5日(日) / 会場:リンクステーションホール青森(青森県青森市)

テーマ:「共に生きる社会」をつくる社会福祉士 ～じゃわめぐ未来へ「わ」と「な」をつなぐ～

参加申し込み開始中 ■ 公式 HP から <https://www.aacsw.or.jp/taikai/>

「Xのぺっこな編集後記」

いよいよ新年度が始まりますね。今期は SW 三団体合同の事例研究会という、これまでにない新たな挑戦が控えており、胸が高鳴ります。

本業の仕事と社会福祉士会の役割を果たしながら、趣味のマラソンでも自己ベスト更新を目指し、公私ともに全力で走り抜ける来年度にしたいと考えています。変化を恐れず、日々の積み重ねを大切に歩みますが、たまにはお花見とお団子で息抜きします(笑)

それでは、また次号でお会いしましょう！

by 編集担当 野村明生



＜編集担当＞

一般社団法人岩手県社会福祉士会 事務局

〒020-0816

岩手県盛岡市中野二丁目 16-1SET ビル 3 階 A

TEL:019-613-5505

FAX:019-613-5506

e-mail アドレス:info@iwate-csw.or.jp